

令和二年度 卒業証書授与式 答辞

草木も徐々に長い冬の眠りから目覚め、吹く風にも春の訪れを感じるこのよき日に、私たち五六四名は前橋育英高校を卒業します。

本日は、私たちのためにこのような式典を挙げていただき、誠にありがとうございます。また、ご多忙の中ご列席くださいました先生方、並びに来賓の皆様は厚く御礼申し上げます。

期待や不安でいっぱいの中出席した入学式からもう三年が経ち、当時のことを振り返ってみると、本当にあっという間で、過ごした時間の一つ一つが大切にかけがえのないものだというのを改めて感じます。入学して最初に参加した新入生遠足。それぞれのクラスで趣向を凝らしたTシャツを着て、育英生全員が一致団結した体育祭や文化祭。特に文化祭では、学校外からも多くの方々に来場していただき、一緒に盛り上がることができました。そして高校生活一番の大イベントであった修学旅行。沖縄で仲間と過ごした三泊四日の旅では、印象深い思い出をいくつも作るとともに、太平洋戦争の沖縄戦で起きてしまった悲劇やその歴史を、深く肌で感じました。部活動においては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、春から夏にかけての大会が中止となったことで、三年間の活動の集大成の場を失い、とても悔しい思いをした人が数多くいました。そのような中、活動が再開され始めた冬の全国大会に出場した男子バスケットボール部や女子サッカー部の活躍は、私たちに希望と勇気を与えてくれました。

こうした思い出が詰まった三年間、私たちが毎日充実した学校生活を送ることができたのは、そばにいてくれた仲間のおかげです。特に今年は、突然の三ヶ月間の臨時休校、夏休みは短縮となり、学校行事も諦めざるを得ない状況になるなど、前例のないことが続く一年でした。そんな中、お互いに励まし合いながら、ともに切磋琢磨してきた仲間たちには感謝の気持ちでいっぱいです。時には素直になれずに衝突することもありましたが、そのたびに少しずつ相手のことを理解していきました。三年間という決して長いとはいえない時間の中で、生涯の友達にたくさん出会えたことを何よりもうれしく思います。

そして、まだまだ未熟な私たちを熱心に指導してくださった先生方。学習の面でも、人としての在り方の面でも、私たちが間違った方向に進みそうなときには、親身になって叱り、たくさん教諭してくださいました。私たちの活躍を心から喜び、背中を押してくださった先生方はとても心強い存在でした。本当にありがとうございました。

また、私たちが元気に日々を過ごし、こうして無事に卒業式を迎えることができたのは、いつも一番近くで応援し、支えてくれた家族のおかげです。朝早くから毎日お弁当を用意してくれたり、仕事で疲れていながらも受験や学校生活について相談に乗ってくれたり、挙げればきりがありません。普段はなかなか気恥ずかしく言えませんが、この場を借りて言わせてください。十八年間育ててくれてありがとうございました。これからも迷惑をかけてしまうことがあると思いますが、私たちの成長を見守ってほしいと思います。

最後に在校生へ。部活動や学校行事ではたくさん思い出を作りましたね。とても楽しかったです。私たちが明日から育英生ではなくなることで、これから本当に学校を支えていくのはあなた方です。つらいこともあると思います。そのときには抱え込まず、周りの友達や先生方、一番の味方である家族を頼るとよいでしょう。卒業するときに後悔しないように、残りの学校生活を全力で楽しんでください。

四月からは、ここにいる全員、生活する環境が大きく変わります。自分の学びをより深める人、新社会人として自立する人…一人一人がまったく別の道を歩き出すこととなります。現在日本では新型コロナウイルス対

策に関連して、ワクチン接種を含めた医療体制の整備、飲食店に対する自粛要請などの経済への影響、東京オリンピックの開催可否についてなど、新たな課題が次々に出てきており、今後社会がどうなっていくのか、見通しがまったく立たない状況です。そうした中、状況を打破し、世の中に新しい風を吹き込んでいくことが、私たち若い世代に求められています。私たち自身がこれから先の困難に立ち向かっていくだけでなく、世の中全体の未来を明るく変えていくことができる存在になっていきたいと思えます。前橋育英高校で培ったさまざまな経験を支えに、これからも大きく成長していくことで、必ず成し遂げられると信じています。

最後になりますが、これまで私たちを支えてくださったすべての方々に感謝し、前橋育英高校のさらなる発展を祈念いたしまして、答辞とさせていただきます。

令和三年三月一日

卒業生代表 奈良 香澄